

インターネット調査にみる

女心を捉えるアート&カルチャー

—興味あるカルチャートップ3 は音楽・絵画・演劇、
好きな絵画トップ3 は「印象派」「19世紀以前の西洋絵画」「日本画」—

2003年2月14日
ポラ文化研究所
(担当：阿保真由美)

1. はじめに

ポーラ文化研究所では、昨年末20代から60代までの女性を対象に、美術・ファッション・化粧品に対する関与度・嗜好性を調査した。その結果をのレポートにまとめる予定であるが、本レポートは~~その~~第1弾である。

調査レポートの全タイトルと内容は下記の通りである。

- ①「ファッションとメイクでわかる、カルチャーに関心がある人はどんな人？」2003.2.4発行
アート、メイク、アートの嗜好性を軸にクラスタ分類し、女性をアートとの関わりを軸にタイプ分けしたレポート。
- ②「女心を捉えるアート&カルチャ2003.2.14発行」
カルチャー、アートの分野で、女性たちの支持が高いのはどのような分野かがわかるレポート。
- ③「(仮)美術館によく行く人はどんな人か? 2003年12月末発行予定」
美術館に行く頻度が高い人はどんな人か? 世帯年収、子供の有無などの属性がわかるレポート。

2. 調査の基本設計

今回のレポートを含め、3つのレポートはすべて、下記の調査結果に基づいている。

- | | |
|---------|---|
| ■調査目的 | アート、ファッション、メイクの嗜好性調査と、クラスタ分析による女性のタイプ分類 |
| ■調査実施期間 | 2002年11月13日(水)~14日(木) |
| ■調査方法 | インターネットサーベイ
(電子メールで告知WEBで回答) |
| ■調査対象者 | 関東地方在住の女性モニター
20代~60代 |
| ■有効回答数 | 1061名 |

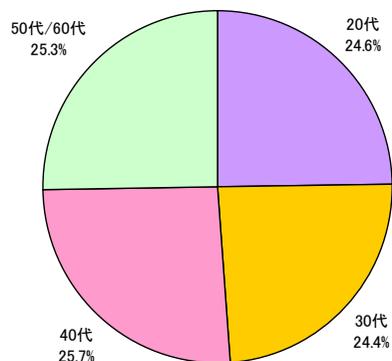
3 . 回答者のプロフィール

有効回答数 1061 人の 20 代～60 代女性パネラーを、4 つの年代区分で集計した。区分は下記の通りである。①20代 ②30代 ③40代 ④50代以上と 4 区分とし、各区分の N 数が 250 人前後で均等に なるようにした。
また、インターネット調査という特性上、パネラーとして登録されているのは、「比較的アクティブなマインドを持つ女性」の割合が高いと言われている。

1) 年代構成

若干 40 代の割合が高いが、各区分ともほぼ同数である。

年代別(N=1063)



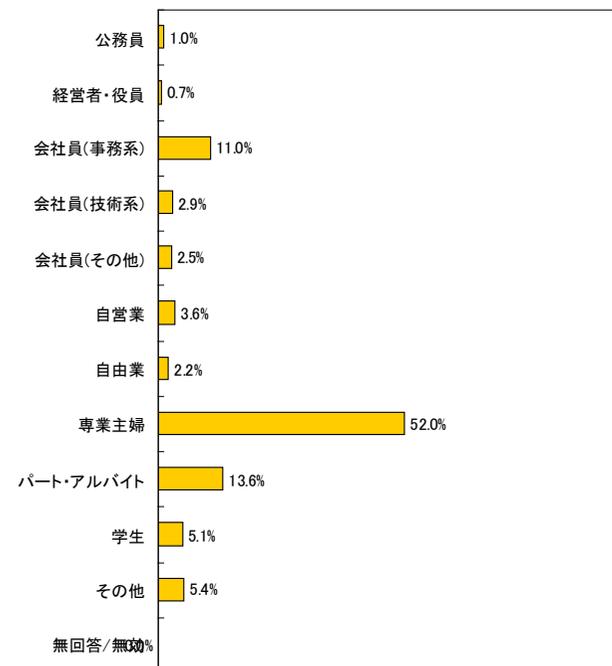
2) 職業

専業主婦の割合が 52%と過半数である。

働いている人の割合は約 43%である。

この数値は 2000 年の国勢調査にみる女性の労働力率、48.2%と比較すると 5%ほど高い。

職業別(N=1063)



3. 調査結果

1) 興味のあるアート、カルチャー

① 全体

右に挙げた 16 種類のアート、カルチャーの中から、興味のあるものに○をつけてもらった。興味のあるものがこの中にはないという回答は全体の4%なので、ここに挙げた16種類で、ほとんどの興味の対象はカバーできていると思われる。

この集計結果から、全年代を合計した数値を見ると、人気が高いのは、

- 1位 音楽
- 2位 絵画
- 3位 演劇・芝居

となっている。これらはすべて、古典的なものから現代的なものまで含む、バラエティに富んだ分野である。

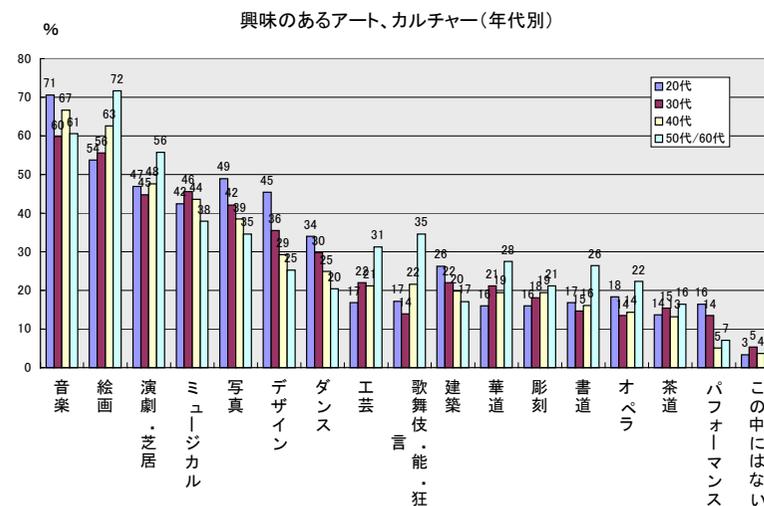
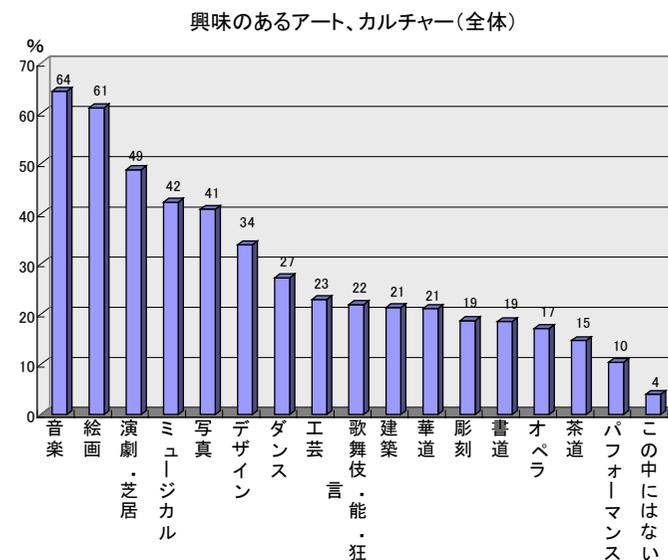
次に、写真・ダンス・デザインといった、どちらかというと現代的な分野が続き、最後に、比較的伝統色が濃い分野が登場する

② 年代別傾向

ここでは同じデータを年代別に分析したものを紹介する。

右のグラフは、すべての分野の年代別支持率を記載したものである。

大まかな傾向として、「高年代になるほど支持率が高くなる分野」と「若年代ほど支持率が高い分野」があることをおわかりいただけたらと思う。このグラフでは小さくて少々わかりづらいので、次ページに、2つの傾向別グラフを掲載した。

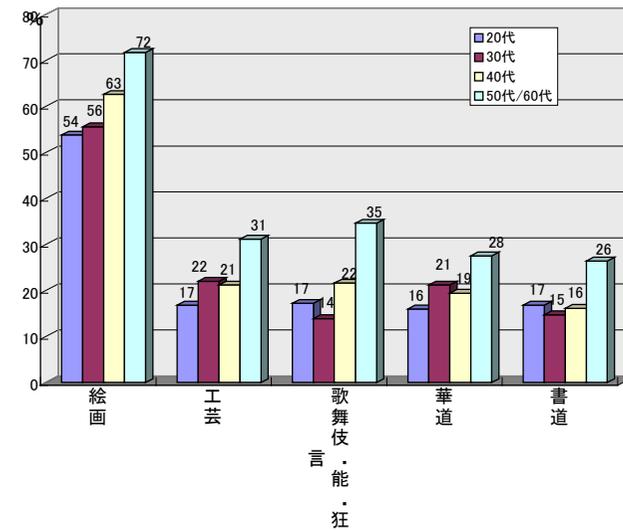


③熟年層からの人気が高い「絵画」「工芸」「歌舞伎」「書道」

中高年層からの支持が高いのは、「絵画」「工芸」「歌舞伎・能・狂言」「華道」「書道」である。「絵画」以外は、日本の伝統文化が並んでいる。「絵画」の人気は今期挙げた16種のアート、カルチャーの中で2位であり、すべての年代から支持されているが、高年齢になるほど、さらに支持率が上がることが特徴である。

日本の伝統文化系統は、50代以上の支持率は30%前後だが、40代以下になると20%前後に下がる。

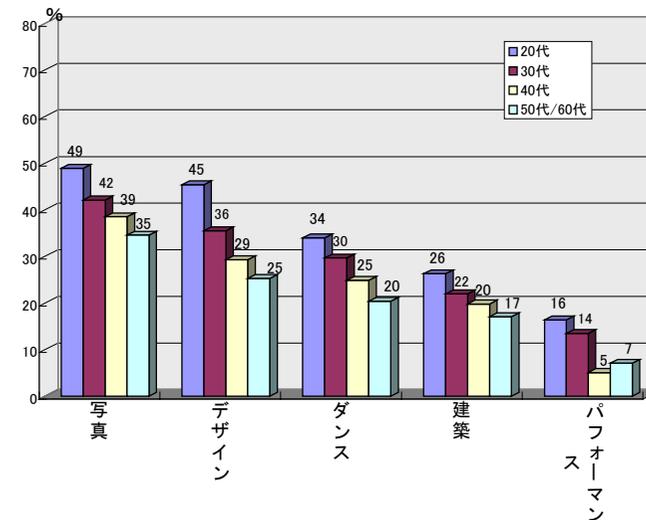
上の年代に関心が高いアート、カルチャー



④若年層からの支持が高い「写真」「デザイン」「ダンス」「建築」

対して、比較的若年層ほど支持が高いのは、「写真」「デザイン」「ダンス」「建築」などである。仮に現在の20代が今の関心の対象をそのまま持ち続けるとしたら、これらのアート、カルチャー分野は、今後、よりさかんになっていくと予想される。特に、「写真」「デザイン」は芸術としては比較的歴史の浅い分野であり、なおかつ、「絵画」「工芸」が一点物という感覚なのに対し、複製が容易であり、大量生産にも適用されるという対照的な特徴があることが興味深い。

若い年代に関心が高いアート、カルチャー



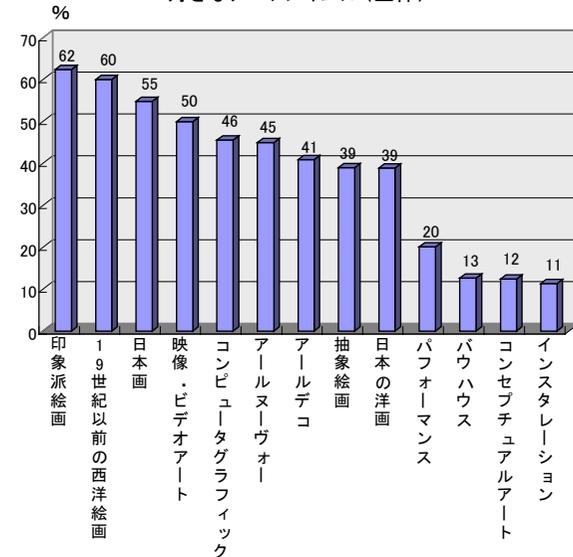
2) アートジャンルの人気No.1は「印象派絵画」

次にご紹介するのは、各アートジャンルへの好感度である。
 古典的芸術から現代アートまで、様々な分野の芸術について、「知らない」「好き」「まあ好き」「どちらともいえない」「やや嫌い」「嫌い」の6段階で尋ね、「好き」+「まあ好き」の全体に占める割合を好感度とした。
 調査対象は右グラフに挙げた13項目である。

①全体傾向

右上のグラフは、全体集計の結果である。
 全体でもっとも好感度が高いのは「印象派絵画」(62%)、次に「19世紀以前の西洋絵画」(60%)と西洋の古典が続き、3位に「日本画」が入る。
 4位「映像・ビデオアート」、5位「コンピュータグラフィック」は、いずれも商業ベースによって成長した近年のアート。
 最も現代的なアートの支持率は低くなっている。

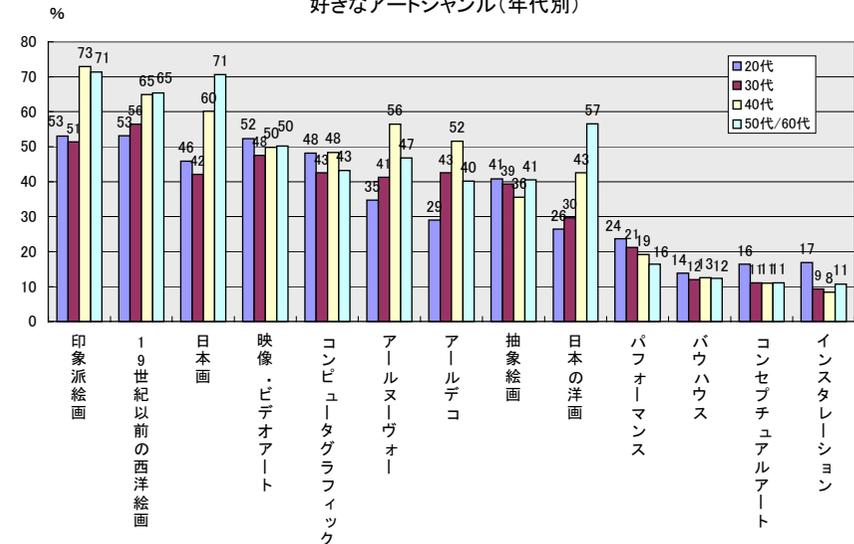
好きなアートジャンル(全体)



②年代別傾向

アート、カルチャーのように、「熟年好み」と「若年好み」の傾向を明確に分類できなかった。
 しいて言えば、「日本の洋画」「日本画」への支持率は、ほぼ年代が上がるほど高くなっている。また、「印象派絵画」も高年齢層の支持が高い。
 その他に目立つのは、残念ながらこの調査からでは理由は不明だが、40代の「アールヌーヴォー」「アールデコ」への支持が特異的に高いこと。また、現代アートに関しては、全体の支持率は1割強だが、20代の支持が他年代と比較して若干高く、今後、若い世代を中心に、定着していく可能性があるという見方もできる。

好きなアートジャンル(年代別)



4 . 考察

一般に、文化への関心は、時間とお金に余裕のある中高年層が高く、若年層はあまり文化的ではないと考えられているが、本当にそうであろうか？ 今回の調査結果から、若年層の文化への関心が低いというわけではなく、関心の対象が中高年層と違うだけで、文化的なものへの興味は決して低くないことがわかった。

右の2つのグラフは、「関心のあるアートとカルチャー」と「好きなアートジャンル」への回答率を年代別に合計したものである。

この2つを比較すると、「関心のあるアート&カルチャー」の累計は、年代差がほとんどないのに対して、「好きなアートジャンル」の累計は、40～60代が530%前後に対し、20～30代が450%前後。若年層で「興味がある」と回答した割合が「15%減」となっている。

この要因は、「アート&カルチャー」の項目が、「音楽」「写真」「デザイン」「ダンス」「建築」など、幅広いカルチャー分野を含めたのに対し、「好きなアートジャンル」の項目は、「絵画」や美術品などに絞ったためと考えられる。

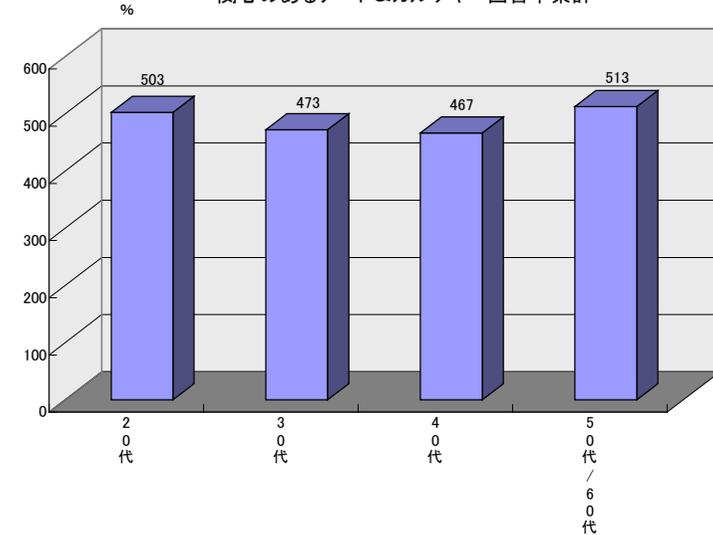
これらの結果から、「アート」に限定して見ると、若年層の文化的なものへの関心度が熟年層に比較して低いように思われるが、それは対象を絞って考えた結果であることがわかる。文化の範疇を「アート&カルチャー」の項目のように、より幅広く捉えるならば、若年層も文化とは疎遠にはなっていない。

日本女性、特に若い世代と文化との関わりは、質的には変化をしながら、関心の高さとしては、変わっていないと推測する。

さらに、「関心がある」と回答した項目数は、一人当たり、「関心のあるアート&カルチャー」は16項目中4.85個、「アートジャンル」は13項目中4.93個(全年代平均)。興味の対象として、それぞれ5個前後の項目が選ばれている。

今回の調査から、「若年から熟年まで、ほとんどの女性にとって、アート&カルチャーは、深い興味・関心の対象である」ということが言える。

関心のあるアート&カルチャー回答率累計



好きなアートジャンル回答率累計

